

第7期第1回神戸市立図書館協議会協議内容

日 時：令和2年12月17日（木） 10時～11時30分

場 所：神戸市立中央図書館2号館3階 閲覧室(2)

出席者：(委 員)湯浅会長、桜間副会長、山崎委員、河島委員、一居委員、
樋口委員、北川委員、田中委員、齊藤委員、立田委員
(事務局)中央図書館長、総務課長、企画情報担当課長、利用サービス課長、
調整担当係長、地域連携推進担当係長、整備担当係長、市民サービス係長、
子供サービス担当係長、調査相談係長、資料係長、企画情報係担当

傍聴者：4人

1 開会

第7期にあたって

- ・中央図書館長挨拶
- ・図書館協議会委員挨拶
- ・神戸市立図書館概要の説明
- ・会長、副会長の選出

2 報告

- (1) 令和2年度神戸市立図書館事業実績（4月～11月）
- (2) 神戸電鉄鈴蘭台駅構内返却ポスト設置
- (3) 名谷図書館の開館予定
- (4) 電子図書館の本格実施
- (5) 新垂水図書館基本方針（案）意見募集実施について

3 閉会

【会長、副会長の選出】

協議会委員の互選により、下記のとおり定まった。

会 長：湯浅委員

副会長：桜間委員

【報告】

事務局より報告。

報告事項 (1) 「令和2年度神戸市立図書館事業実績 (4月～11月)」 (資料4)

- ・4月から11月までの事業実績について、主な事業と感染症対策について説明。

報告事項 (2) 「神戸電鉄鈴蘭台駅構内返却ポスト設置」 (資料5)

- ・鈴蘭台駅構内に令和2年10月に設置した返却ポストについて説明。12月は1日平均70冊程度となっており、利用は伸びている。

報告事項 (3) 「名谷図書館の開館予定」 (資料6)

- ・令和3年3月24日に開館予定である名谷図書館について、開館日やレイアウト、座席予約システム等の決定事項について報告。

報告事項 (4) 「電子図書館の本格実施」 (資料7)

- ・令和3年1月5日から本格実施予定である電子図書館について、「読書バリアフリー法」の趣旨に基づいて、日本語の読み上げが可能で、視覚障害者向け利用支援サイトがあるプラットフォームを採用したこと等を報告。

報告事項 (5) 「新垂水図書館基本方針 (案) 意見募集実施について」 (資料8)

- ・令和2年11月6日～12月6日まで行った「新垂水図書館基本方針 (案)」への意見募集について、基本方針の概要と寄せられたご意見について主なものを報告。

【報告に関する質疑応答】

(委員) 2点質問がある。1点目は、図書館は生涯学習の重要な施設であると思うが、SDGs (持続可能な開発目標) の観点から、図書館事業をどのように考えているか、ということをお願いしたい。2点目は、電子図書館の本格実施が始まるようだが、電子的なコミュニティだけでなく、リアルなコミュニティについて、図書館がどれほど把握されているかということをお願いしたい。新垂水図書館の基本計画案の項目4に「本を介して出会い交流し学習する機会を」とある。主体的で対話的に深く学ぶということ考えた時に、主体的ということは本を読めたら良いが、対話的に深く学ぶという所は方法として考えていく必要があり、人と人の対話的なリアルなコミュニティをどう作っていくかということが重要だと思う。

(事務局) 2点目のコミュニティについてお答えする。図書館は、本を置いている場であると同時に、本を仲立ちに人が集まってくる場であると認識している。新しい図書館建設の際には、そのような場作りが欠かせないと考えている。新垂水図書館基本計画案でも「街に開かれ、交流を促す図書館」を柱の1つに挙げ、「じゃ、図書館で」と待ち合わせができるようなエリアを図書館内に作ることを目標の1つにしている。現段階では、そこでどのようなコミュニティが生まれ、それらに対して図書館がどこまで関わっていくかという所まではシミュレーション出来ていないが、まず場を作ることで人が自然発生的に集まってき

て、それを継続的に維持できるように図書館が支援する、ということは出来るかと考えている。新西図書館では、神戸市立図書館としてはじめてボランティア控室の設置を計画している。場所があることで、継続的にボランティアが活動し、その場で繋がりが広がっていくことを期待している。また、例えば読書会であるとか、市民自身が得意とする分野の講師となるなど、新しいコミュニティを作り、様々なイベントを継続的に行っていく中で、コミュニティ作りの支援ができるというように考えている。

(委 員) LINE や Facebook で発信しているという説明が報告事項 (1)「令和 2 年度神戸市立図書館事業実績 (4 月～11 月)」の中でもあったが、神戸市立図書館の Facebook があるのか。

(事務局) そのとおりである。ただし図書館から発信するのみで、市民からのコメントに返事を書くなどのやりとりまでは、現在はしていない。

(委 員) 資料 4 の 5 ページに記載の、「エコール・リラ」とは何か

(事務局) 北神図書館が入居している商業施設名である。エコール・リラが発信している LINE に、北神図書館のイベントのお知らせなどを載せてもらっている。

(委 員) 各市立図書館に、読書に関わるグループサークルはどれ位あるのか、統計を教えてください。公民館では、グループサークルがどの位あるかということ把握し、公民館活動に活かしている。電子的なネットワークだけでなく、リアルなネットワークがあるのとないのでは、学習環境の育ち方が違ってくる。リアルなネットワークが図書館を支える大きな基盤になる可能性がある。

(事務局) 現在、北図書館で 1 グループが活動されているが、ボランティアではない純粋なグループサークルについては、把握していない。

(会 長) 最近新しく建設された図書館は、複合的な生涯学習施設に図書館が入る事例が多い。そういった図書館では、他の施設でコミュニティ活動を行ったり市民講座を受講しに来たりした人が、図書館も利用するという相互の関係があり、図書館がコミュニティについて把握している場合もある。リアルなネットワークについての指摘は、今後の展開を考える上で重要な問題提起である。

(事務局) 質問 1 点目の SDGs についてお答えする。例えばこの事業は SDGs の視点に当てはめられるだろうとか、図書館資料を使って SDGs を啓発するというようなことは考えられるが、今現在は SDGs の観点から事業評価というようなことは行っていない。

(委 員) SDGs の目標 4 は「質の高い教育をみんなに」である。すべての人に学習機会をとという視点は、利用しにくい市民への環境整備をどれ位しているか、ということに繋がる。そのような観点から、図書館の目標と評価を設定してはどうか。

(会 長) 重要な指摘である。図書館は市が条例に基づいて設置するものであり、市の総合計画等を実現していくことが大きな任務であるが、世界的に定められた

SDGsについても、具体的に達成目標を定めて実現していき、それが1人1人の市民がわかる形になると良い。第7期でこれらに取り組んではどうか。

(委員) 第6期の活動内容のテーマは「多様な人々の円滑な図書館利用」であったとの説明があったが、第7期のテーマはあるのか。

(事務局) 図書館協議会は平成20年度に設置して以来、2年を1期として1期毎に協議テーマを定めてきた。初期は図書館サービスを俯瞰したような大きなテーマで自由に話し、その中から議論し残したことを次の期に引き継ぐという形でやってきたが、第6期については「多様な人々の円滑な図書館利用」ということについて、議論していただいた。ちょうど時期が重なるようにいわゆる「読書バリアフリー法」が施行された。第7期では、常に留意しておくテーマとして「読書バリアフリー法」を念頭に置き、例えば事業目標や評価、活動内容、新館建設等、そういったすべてにおいて、出来ているか、達成できているか、という視点で第7期委員の皆様にはご教示いただきたい。

(委員) 試行実施期間中に電子図書館を利用したが、私も主人も最初は興味を持ち登録したが、読みたい本がなかったり、使い方が良くわからなかったりして使わなくなった。『神戸市立図書館事業概要 令和2年度』22ページの利用実績のグラフからも、初期に大勢の方が登録して、後は使われる方だけが使っているという状況が読み取れる。本格実施においては事業者を変更したとのことで、コンテンツも変わると思うので内容を期待している。子供は、デジタル機器の有無、保護者のデジタル機器に対する理解など、家庭によって環境に差がある。また、私の70代の両親のような高齢者は、教える人がいないとなかなか使いこなせない。そういった子供や高齢者などなかなか自分で出来ない方達に対して、使い方と電子図書館を使うとこんなことが出来るという楽しみ方をフォローしてもらえたらと思う。

(委員) 駅に設置している返却ボックスについて、神戸市の西域に多い印象だが、東域にも置く計画はあるか。小学4年生の娘がおり、図書館員の体験に参加したことがある。今回は、東灘図書館のプログラミング講座に応募したが、感染症対策のため人数が制限されていたからか、残念ながら参加できなかった。このような良い行事をしていても、私の周りの友達には知られていないようだ。若い世代の人に伝えるのであれば、InstagramやLINEを利用して発信したり、小学校でチラシを配布したりしてはどうか。

(事務局) SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を利用した発信については、以前から協議会でも指摘を受けているところである。現在はFacebookを用いているが、Facebookは利用される年代が上がっており、子供をお持ちの保護者には届いていないのではないかと、その意見も頂いている。他のSNSを用いて発信することは、努力目標として常に持っている。駅に設置している返却ポスト

については、地域を問わず設置のご要望を頂戴している。全市的な視点から最も効果的な地域を慎重に検討していきたい。

(委員) 資料4「令和2年度神戸市立図書館事業実績(4月～11月)」に、指マーク(☞)の後に「コロナ時代に開催する工夫」が書き添えられており、どのようなことをしたのか分かりやすかった。私自身もおはなし会に携わっているので、感染症対策について伺いたい。同資料の8ページに、定例の子供向けのおはなし会については、マスク、フェイスシールド着用、透明パネルの設置、人数削減、換気・消毒とあるが、大人を対象とした行事の感染予防の基準はあるか。

(事務局) 大人向けのイベントでも子供向けと同じ対策をしている。マスク着用で2メートル離れる、2メートル保てない時はさらにパネルも設置する、参加者全員がマスクをする、換気に努めるというようなことである。当初は子供への対応に気を使っていたが、現在は高齢者により気をつけないといけないということがある。

【閉会】

(事務局) 次回は5月に開催を予定している。事務局より日程調整の連絡をするのでお願いしたい。